

令和4年第2回（3月）定例会 一般質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
1	<p>◎ 佐渡の医療体制について</p> <p>1 新型コロナウイルス感染症拡大での医療体制について</p> <p>(1) 感染の急拡大に伴う重症患者増加への対応と医療体制の強化を考慮しておかなければならないと考えるが、市として、どのような取組を行っているのか（感染症は県任せでなく、市としても市民の命を守る観点で積極的に県に提言すべき）</p> <p>(2) 佐渡で感染症に対応するための病床は、佐渡総合病院に4床となっている。感染拡大した場合、それ以上の病床が必要になると思うが、病床準備をどのようにされているのか。あわせて、感染症に対応できる機器やスタッフ確保、必要な研修などが行われているのか（佐渡総合病院及び市立両津病院で行われているのか）</p> <p>(3) 感染者が多くなり、政府は自治体判断で軽症者は自宅療養も可能としている。昨年の「第5波」では、自宅療養で病状が急変して亡くなる人が全国に多数いた。自宅で病状が急変することも想定しておかなければならない</p> <p style="padding-left: 2em;">感染者に、医療の目が行き届く体制が必要であり、基本は入院、または宿泊施設での療養とすべきと考えるが、市長の見解を問う</p> <p>(4) 新潟県の自宅療養者数は、2月4日時点で3,790人となり、昨年8月末の「第5波」ピーク時の923人の4倍になった。やむを得ず自宅療養者となる感染者に対しては、地元医師会の協力も得て、往診や体調チェックができる体制、感染者が24時間必要時に何回でも相談・連絡できる体制が必要と考えるが、実態とともに、市長の整備方針を問う</p> <p>2 佐渡圏域の医療再編について</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症を通じて、日頃から余裕のある病床や医師・看護師体制がないと非常事態に対応できないことが明らかになったと考えるが、市長はどのように受け止めているのか</p> <p>(2) 佐渡医療圏の今後の医療提供体制について</p> <p>① 全国や県内の二次医療圏と比べて、佐渡医療圏域の医師数が極めて少ない状況を改善することが必要だという点について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 新潟県の医師数は、2018年の厚生労働省の医師偏在指標で全国最下位にあり、人口10万人当たりの医療施設で働く医師数は全国44位と全国最下位レベルである。このような新潟県にある佐渡市も当然のように医師不足である</p> <p style="padding-left: 2em;">新潟県の医師確保計画（2020年策定）で述べられているように、佐渡の医師偏在指標は、全国で335ある二次医療圏域中、320位と最下位レベルにあり、全国の中でも医師不足の圏域になっている</p> <p style="padding-left: 2em;">医師の数で言うと、佐渡の2018年末の医療施設で従事する医師数は83人（新潟県福祉保健年報より）、人口10万人当たりで見ると、全国平均の62%に過ぎない</p> <p style="padding-left: 2em;">佐渡は、患者を島外へ搬送することが簡単ではない環境に置かれているため、島の中で医療が完結できるような体制をつくることが求められるにもかかわらず、この医師の数では全く不十分だと考えるが、そもそも市長は、佐渡の医師数の現状をどのように受け止めているのか。まず、この状況を早急に改善することが求められると思うがどうか</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 大本の医師不足への対策を行わず、「医師確保ができないから医療体制を縮小し、再編する」というのでは、市民は医療から遠ざけられるだけだと考えるが、どうか</p> <p style="padding-left: 2em;">ウ 佐渡は、無医地区・準無医地区が計9地区ある。両津病院が巡回診療を2地区9会場で約3週間毎に実施している。今後、高齢者が増えることが想定され、それに伴って、在宅医療が必要な人も増えると思われるが、在宅での医療を担う体制も考えなければならない。診療所の医師が高齢化していくという中では、病院から地域に往診に出る体制を広げなければならないのではないか。それを踏まえた医師確保が求められると考えるが、今後の在宅医療を踏まえた医師確保の必要</p>	中村良夫

順	質 問 事 項	質 問 者
1	<p>性について、市長はどのように考えるか</p> <p>エ 医師確保は、病院や佐渡市だけで行うには無理があり、問題である。国や県が責任を持って配置しなければ困難である。全国の医師数を増やさなければ医師の余裕が生まれないことは明らかである。国は、2023年度から全国の医学部入学生定員を減らす方針を示しているが、その撤回を市長から求めるべきではないか</p> <p>オ 今回、佐渡の医療再編に関わって、国は佐渡医療圏域を「重点支援区域」に指定した。国が直接支援をするのなら、国の責任で「医師派遣制度」を作り、佐渡のような医師不足の圏域に医師を派遣するように求めるべきではないか</p> <p>国の「重点支援区域」への支援内容は、病床を減らした場合、1床あたり平均150万円もの給付金を支給するというものである。その財源があるなら、病床を減らして医療体制を後退させるのではなく、医師派遣制度で医療体制を維持するために使うのが、佐渡の市民にとって求められるものだと考える。市長の見解を問う</p> <p>② 再編案の内容について</p> <p>再編案は、「今後、医療需要が減るので病床削減と再編をする」との内容になっている</p> <p>ア 佐渡の入院患者数は5年間で17.1%減少し、今後も医療需要が減るとしているが、既に、入院患者の減少を超えて病床数は減っている。2020年に515床稼働していた病床は、2022年4月から421床に、94床減少(△18.25%)する</p> <p>相川病院を再編案どおり19床の有床診療所にすれば、佐渡全体の病床数は388床となり、2020年に比べて127床も減少(△24.66%)することになる。このような大幅な病床削減で、佐渡の医療体制が賸えるのか。大問題だと考える</p> <p>地域医療構想で県が2025年の必要病床数と推計した病床数558床より170床(△30%)も少なく、回復期、慢性期病床も不足である。医療需要に対して病床総数そのものが不足だという認識はないのか</p> <p>イ 人口10万人当たりの病床数で見た場合、2019年の医療施設調査の試算では、佐渡の病床数は人口10万人当たり1,000床を超えているが、再編案では733床となり、これでは、全国や県内の二次医療圏に比べても、極めて脆弱な医療体制となる</p> <p>島内で医療が完結できるのか、新型コロナウイルス感染症など緊急事態にも対応ができるのか、再編案による病床削減には無理があると考えますが、市長はどのような認識か</p> <p>ウ 佐渡の救急搬送件数は年間2,000件を超えており、人口減少していても変わらないうえ、急患の搬送が多い。高齢者が増えれば救急の需要も増えてくる</p> <p>再編案は、救急を佐渡総合病院へ集約し、両津病院は回復期へシフトする方針だが、救急機能の分散化が必要ではないか。一極集中を進めた場合、拠点病院が被災したり、新型コロナウイルス感染症でクラスターが発生したような場合、佐渡全体に及ぼす影響が大きくなるのが想定される</p> <p>救急需要が人口減に沿って減少するわけではないことを踏まえ、救急体制の分散化について検討する必要があるのではないかと考えるが、市長の見解を問う</p> <p>エ 再編案は、医師が減ることを前提にした医療縮小計画であり、圏域の総病床数を減らし、佐渡の医療体制をますます脆弱なものに進めていく内容である。国の病床削減や県の医療効率化の方針に従うのではなく、「根底にある医師不足を解決し、佐渡のどこに住んでも医療が受けられる体制整備を」と、市長が率先して国や県に求めるべきではないか。市長の見解を問う</p>	中村良夫
2	<p>1 世界文化遺産登録を目指す佐渡の今後の政策を問う</p> <p>(1) 国、県との連携体制はどのようになっているのか、また今後のスケジュールは</p> <p>(2) 韓国からの指摘事項に対する市の事実認識はどうか</p> <p>(3) 登録に向けた現在の課題認識、及びその対策は何か</p> <p>① 宿泊者の受入体制はどうするのか</p> <p>② 島外からのアクセス、島内交通網の利便性向上への整備計画はどう進めるのか</p>	林 純一

順	質 問 事 項	質 問 者
2	<p>③ ICTの環境整備、活用計画はどうしていくのか</p> <p>④ 外部連携によるホスピタリティの向上について、現在までの成果はどうか</p> <p>⑤ 地場製品の販売促進等、第一次産業振興との連携計画は何か</p> <p>⑥ 新たな財源の確保等についてはどう考えているのか</p> <p>2 移住交流推進の成果と課題について</p> <p>(1) 具体的な成果とその要因は何か</p> <p>① 移住者（U I ターン）者について</p> <p>② 企業誘致について</p> <p>(2) 現状の課題認識と今後の対策は何か</p> <p>① 移住者のニーズ把握と対策は何か</p> <p>② 企業誘致による経済効果はどうか、また今後の拡大策は何か</p> <p>(3) 一旦の到達点はどこに置くのか</p> <p>3 島の農業の将来展望について</p> <p>(1) 耕作放棄地、就農年齢、生産量、集約化の進捗に関する実績（データ）はどうか</p> <p>(2) 市としての重点対策事項は何か</p> <p>(3) 移住交流政策との連携はどうか（移住者への就農支援策等）</p> <p>(4) 「つなぐ棚田遺産」の今後の利活用と維持についてどう考えるのか</p>	林 純一
3	<p>1 中山間地農地を守る集落営農について問う</p> <p>(1) 市の進める集落営農はどのような地域づくりを目指すか 集落営農は単に地域での農産物生産方法を個人から共同に変えるだけでなく、農地保全を通じた集落の在り方を考える村づくりの観点が必要だが、目指す集落営農はどのようなものか</p> <p>(2) 集落営農の進め方と支援体制について</p> <p>① 集落営農による農地保全を提唱しているが、どのような組織を想定しているか</p> <p>② 集落営農を進めるに当たり法人化はどのような法人形態を目指すのか</p> <p>③ 法人化の進め方とサポート体制について、市、農業委員会、JAのそれぞれの役割は</p> <p>④ 所有者不明農地の利活用をどのように進めるか</p> <p>2 「支所・行政サービスセンター拠点化事業」で目指す地域コミュニティについて問う</p> <p>(1) 元気な地域づくり支援事業で目指す地域コミュニティはどのような組織か</p> <p>(2) 総務省地域力創造グループ過疎対策室の平成29年度調査では、佐渡市において「集落支援員」が選任1名、兼任6名配置されているが、集落支援員制度を導入した効果や課題は何か</p> <p>(3) 地域課題解決や地域活性化について、地域活動支援員の役割と支援はどのように進めるか</p> <p>3 安心して子育てできる環境整備による移住定住の促進で転入超過を目指す施策について問う</p> <p>(1) 総務省の住民基本台帳人口移動報告で転入超過率が改善した市町村の取組は、子育て予算や補助が充実している。佐渡市の移住定住の取組について問う</p> <p>① 市では、現在保育料は、3歳児以上は無償化しているが、3歳児未満も無償化による負担軽減ができないか</p> <p>② 学校諸経費の中で給食費の占める割合が大きいが、給食費無償化による負担軽減ができないか</p> <p>(2) 長引く新型コロナの影響で教育費に悩む家庭を救う就学援助の充実について問う</p> <p>① 就学援助の対象を生活保護基準の倍率の引き上げによる利用者増加で子育て世代を支援すべき</p> <p>② 申請方法や審査手続に改善が必要ではないか</p> <p>③ 就学援助制度における準要保護の認定基準について、他市町村を参考に認定基準項目を増やすべきではないか</p> <p>4 ケア労働者等の処遇改善について問う</p>	佐藤 定

順	質 問 事 項	質 問 者
3	<p>(1) 介護職員の処遇改善は、今年2月から9月までは国の交付金で実施されるが、10月以降は介護報酬上での対応に切り替えられるため、全額国庫補助から国の負担が大幅に減り、自治体負担やサービス利用者・被保険者の新たな負担が想定されるが、佐渡市はどのような対応を予定しているか</p> <p>(2) 放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業による学童保育指導員の処遇改善はどのように行うか</p> <p>(3) 国は保育士の処遇改善に当たり「一人当たり月額平均 9,000 円の賃上げに相当する額」を加算するとし、2021 年内閣府補正予算で措置したが、国の措置どおり月額平均 9,000 円の賃上げは実施できるか</p> <p>5 佐和田病院閉院によるリウマチ患者の受入先の充実を求める 佐和田病院閉院によるリウマチ患者の新たな受入れは、両津病院で月 1 回の診察を予定している。しかし、リウマチ患者 120 人のうち診察できる患者数に限界があるため、患者によっては専門医師の診察が受けられないことが懸念される。専門医師での診察回数を増やすなど、患者の選択肢を確保することは新潟県並びに佐渡市の責務だが、佐渡市としての対応はどのようにするか</p>	佐藤 定
4	<p>1 令和4年度施政方針について</p> <p>(1) 地域コミュニティ交付金について 創設される地域コミュニティ交付金を使用できる団体や個人、上限金額、支援内容など具体的な説明を求める</p> <p>(2) スポーツ施設整備について</p> <p>① 令和4年度に離島甲子園を計画しているが、使用する予定の野球場の整備は整っているか</p> <p>② 健康寿命日本一を目指し様々な政策を検討しているが、体育施設などの改修計画はどのようにになっているか</p> <p>③ 佐渡市スポーツハウス温水プールの改修計画はどのように考えているか</p> <p>2 令和4年度教育行政方針について</p> <p>(1) G I G Aスクール構想について</p> <p>① 約1年間、1人1台端末を活用して、現状の課題は何か</p> <p>② 今後のデジタル教科書導入のスケジュールについて説明を求める</p> <p>(2) 令和4年度から運用予定の「佐渡市公立保育園・幼稚園・認定こども園運営基本方針」で『あそびは学び さまざまな物・人・自然と関わり とことんあそびこめる子ども ～未来を切り開く力の基礎を培う～』と基本理念があるが、教育委員会として具体的に幼児期の終わりまでに育てほしい姿をどのように考えているか</p> <p>(3) コロナ禍での子供たちの体力低下に対する具体的な支援をどのように考えているか</p> <p>(4) 令和4年度中に策定・公表予定の「佐渡市小学校・中学校再編統合計画」の現状とスケジュールの説明を求める</p>	平田和太龍
5	<p>1 施政方針における市長が掲げた6つの柱の達成度と課題について</p> <p>2 離島振興法の問題とは何か</p> <p>3 地域医療、介護の連携について</p> <p>(1) 重点支援区域の課題は何か</p> <p>(2) 病床機能再編計画では、佐渡全体で 481 床から 388 床に減少するが、問題はないのか</p> <p>(3) 医療、介護の人材確保と育成に関する調整はどのようなものか</p> <p>(4) 佐渡において、地域医療介護総合確保基金を充てた事業は何かがあるのか</p> <p>(5) 在宅医療支援についての考え方</p> <p>(6) 認知症対応について</p> <p>(7) 両津病院建設に向けて、財政的な問題はないのか</p> <p>4 移住対策について</p> <p>(1) 移住支援金の利用実績</p> <p>(2) 空き家を研修センターとし、季節移住者の滞在拠点とするとしているが、どのよ</p>	駒形 信雄

順	質 問 事 項	質 問 者
5	<p>うな活用を想定しているのか</p> <p>(3) 移住者の定着に向けた課題は何か</p> <p>5 観光戦略について</p> <p>(1) 国の観光支援政策の活用方針</p> <p>(2) DMOと観光振興課の役割をどのように整理していくのか</p> <p>(3) 外部人材の具体的な活用事業</p> <p>(4) コロナ後の観光戦略をどのように描いているのか</p> <p>6 佐渡航路対策について</p> <p>(1) みちのりホールディングスとの協定書の内容</p> <p>(2) 今後の航路支援は、どのようなものを考えているのか</p> <p>7 佐渡空港対策について</p> <p>(1) 県が進めた調査結果について</p> <p>(2) トキエアの就航の見通し</p> <p>(3) 地権者交渉の状況</p>	駒形 信雄
6	<p>1 佐渡金銀山世界遺産推薦を受けて</p> <p>(1) 佐渡金銀山が世界遺産に登録された場合は、その維持が大変と聞くが、遺産維持のために今後どんな取組をするのか</p> <p>(2) 世界遺産推薦を弾みに、今まで見過ごされていた佐渡の歴史や文化を大切にす風土が根付き、市民として佐渡の歴史に目を向けられるようになればよいことだと考える。そのためには、市民を巻き込んだ歴史文化の継承が大切になるが、佐渡市としての取組を尋ねる</p> <p>2 自然エネルギーの島構想</p> <p>(1) 日本は2050年カーボンニュートラルの目標を掲げているが、佐渡市はこのことについてどう対応するのか</p> <p>(2) 以前は、学校の暖房にペレットストーブを使っていたと聞くが、なぜやめてしまったのか</p> <p>(3) 以前は、薪ストーブやペレットストーブ購入に補助金をつけて推奨していたが、なぜ今はやめてしまったのか。このことはカーボンニュートラルばかりではなく、リフォームを機に火のぬくもりのある家になりたいと薪ストーブの購入を考えている人の要望をかなえることにもなる。また、森林伐採時のC材やD材を燃料にすることにより、捨てていた間伐材や端材がカーボンニュートラルに役立つことになり、里山整備にも役立つことになる。佐渡島の基本をつくる重要な補助金だと考えるが、佐渡市はどのように考えているのか</p> <p>3 高齢者の健康増進、長寿社会のために</p> <p>(1) 温泉の健康増進効果は広く認められているところだ。温泉施設を健康増進施設と位置づけ、課をまたいだ健康増進施策を行えないか</p> <p>(2) 学校体育館の無料開放で高齢者の運動の場を提供してはどうか</p> <p>4 佐渡の医療施設の減少をどう考えるか</p> <p>(1) 佐渡全体の病床数と医療施設の減少は、市民にとって医療の質の低下であるが、そのことをどのようにフォローしていくのか</p> <p>(2) このことは人口減少にも拍車がかかるものと思われるが、どのように考えているのか</p> <p>5 佐渡航路の安定を求める</p> <p>(1) 佐渡汽船は今後、みちのりホールディングスの傘下に入り、経営の立て直しを図るものと思われるが、経営の立て直しは痛みを伴うものになりはしないか。そのことは島民の利便性にしわ寄せがくるのではないかと懸念されるが、佐渡市としてどのように考えているか</p> <p>(2) みちのりホールディングスのCEOは、2月8日の議員全員協議会で「小木航路は「あかね」からジェットフォイルに替えても赤字は解消できていない。公的な補助があれば維持していく」旨の発言があった。このことについて、佐渡市としてどのように考えるか</p>	中川 健二

順	質 問 事 項	質 問 者
6	<p>6 佐渡の林業を考える</p> <p>(1) 里山の整備が行き届かないのは、木を切っても利益を得られない、利益が出ないから植林もできないと聞かすが、これでは山が荒れ放題になってしまう。この里山を整備するにはどのような方法があるのか。また佐渡の現状ではどうするのがベストなのか</p> <p>(2) 今原木で移出している木材を佐渡で消費することが佐渡のためになると思うが、そのためにはどうすればよいか</p> <p>7 佐渡市ふるさと納税の返礼品の見直しをしたらどうか</p> <p>(1) 昨年の返礼品は 590 種類と非常に多く用意しているが、そのことによる弊害はないのか</p> <p>(2) 返礼品は食品が大多数を占めているが、佐渡に来て食べてもらえるような返礼品はできないのか</p>	中川 健二
7	<p>1 「佐渡島の金山」世界遺産登録へ向けた取組について</p> <p>(1) 国内推薦後の国、県への対応、本登録へ向けた連携は取れているか</p> <p>(2) 観光との結びつき、戦略はどのように考えているのか</p> <p>(3) 今後來島者数が増加した場合、環境面での不安を抱える方が多い。入島税の議論を早期にすべきと考えるが、どうか</p> <p>2 海洋ごみ、加茂湖のごみについて</p> <p>(1) 現在の回収・処分はどのようにされているか</p> <p>(2) 流れ着くごみの調査はできているか</p> <p>(3) 対策と注意喚起について</p> <p>3 入浴施設について</p> <p>(1) 市の入浴施設に対する方針が示されたが、方針を決めた経過について説明を求める</p> <p>(2) 本定例会に上程されている議案第 8 号について、新穂瀧上温泉以外を指定管理にする方針であるが、令和 5 年 4 月 1 日施行の条例を今定例会に上程する意味は何か</p> <p>(3) 現状の入浴施設を運営している事業者との契約に問題はないか</p> <p>(4) 建物の現状について、市はしっかり把握できているか</p> <p>4 島内事業者への新たな支援・政策について</p> <p>(1) コロナ禍の影響により、従来どおりのビジネスモデルが成立しなくなった業種が多くある。支援策は今まで国、県、市をはじめ様々行ってきたが、今後の対策をどのように考えているか。観光、商業とそれぞれ説明を求める</p> <p>(2) 新たなニーズの把握、そこへの政策はあるか</p> <p>(3) ブランディング戦略について</p> <p>5 医療従事者の確保、育成について</p> <p>(1) 島内での人材育成を強化すべきと考えるが、現状をどのように把握しているか</p> <p>(2) 看護師緊急確保事業について</p> <p>6 臨時休業によるリモート授業について</p> <p>(1) 今年に入ってから新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休業が多くあった。リモート授業の実施があったと聞かすが問題はなかったか</p> <p>(2) 臨時休業に伴い、急な休みに対応できない保護者はいなかったか。また、いた場合、児童・生徒の対応はどうであったか</p>	北 啓
8	<p>1 次期衆議院選挙の区割りについて、知事にどのような意見を出したのか。また、選挙区の区割りについての市長見解</p> <p>2 新年度予算について</p> <p>(1) リスタート元年の意味は</p> <p>① 「令和 4 年度の『リスタート元年』の実践に当たっては……」と位置づけている。過去には「佐渡再生元年」などと位置づけた市政もあったが、「リスタート元年」の意味は何か</p> <p>② 4 年任期の折り返し年度で、選挙公約の 6 本の柱や市政運営についての自己評価はどうか</p>	中川 直美

順	質 問 事 項	質 問 者
8	<p>(2) 離島交通の在り方について</p> <p>① 佐渡航路</p> <p>ア 民間子会社となる選択は、どのような考え、経過でそうなったのか。その考え方と経過について、「当面、現状維持」との報道が目につくが、今後の見通し</p> <p>イ 受け手のみちのりホールディングスと、今後の佐渡航路の在り方などに関わる3月31日に行う5者連携協定項目</p> <p>ウ 全国の離島航路は、もともと厳しい状況で、最終的な航路維持の責任は新潟県であり、同様の主旨の発言を知事もしているが、過去の船舶建造時のように最終的に佐渡市への押しつけにならないように担保は取れているのか</p> <p>② 航空路</p> <p>格安航空会社就航への行政としての関わり方。また、従来からの飛行場2,000メートル拡張の状況と今後の取組について</p> <p>(3) 世界遺産登録に向けて</p> <p>登録の見通しと佐渡市の対応はどのようなものになるのか</p> <p>(4) 地域医療や介護等の在り方について</p> <p>① 佐渡圏域について、新潟県のグランドデザインをどう捉えているのか。また、七つの医療圏で唯一、県立病院もない市が建設する市民病院への県の支援姿勢、及び交渉状況</p> <p>② 特別養護老人ホーム歌代の里民営化の事業者公募はどのようにになっているか。また、事業者が出なかった場合はどうするのか</p> <p>③ 高齢者施策として、総合的なささえあい条例の取組が必要ではないか</p> <p>(5) 地域づくり等と外部人材の活用による組織体制について</p> <p>① 新たな組織体制と外部人材の活用は具体的にどのようなようになるのか</p> <p>② 地域コミュニティ交付金と新たな地域活性化に向けた事業予算の確保も含めた各地域の振興方向は</p>	中川直美
9	<p>◎ 人が人らしく生きられる佐渡を子どもたちに喜んで渡すために質問をする</p> <p>1 支所・行政サービスセンターの拠点化と地域コミュニティづくりについて</p> <p>(1) 支所・行政サービスセンターを地域の拠点にするとどのようなことか、市民に分かりやすいイメージを示して説明を求める</p> <p>(2) 拠点化が必要であることのこれまでの問題とこれからの課題は何か</p> <p>(3) 誰が中心になって取り組むのか。その職務は明文化されているのか</p> <p>(4) 地域コミュニティづくりとはどのようなことか、市民に分かりやすく説明を求める</p> <p>(5) 現在の地域の問題と課題とニーズは何か。その中でも優先順位をつけたいことは何と捉えているか</p> <p>(6) 地域コミュニティづくりの予算配分を公平にするために、どのような仕組みを考えているか</p> <p>2 市民と市役所の情報伝達、コミュニケーションについて</p> <p>(1) 市民が知らない間に地域のことが決められていたり、進められていることが多いと市民は感じている。情報の周知はどの程度うまくいっていると評価しているか</p> <p>(2) 改める必要があると考えるがどうか</p> <p>例えば、高齢者が運転免許証を返納すると、1万円の交通費補助が出るが、誕生日を境にもらえる、もらえないとの条件は、高齢者の生活に大きく関わることだが、「知らなかった」という当事者が圧倒的に多い。誰にどのような方法で周知するか。</p> <p>(3) 地域に説明をする担当者は誰なのか。本庁の職員か、支所・行政サービスセンターの職員かは決められているのか</p> <p>3 島民の人づくりに力を入れた社会教育について</p> <p>(1) 新年度は図書館活動の活性化に一步踏み出すイベントを企画したことを市民は歓迎しているが、今後さらに展開するためには人材が大事である。図書館司書の多くを正規職員にしないことで異動なく地域にとって質のよい図書館サービス提供ができて一方、職務に限られることは問題ではないか。どのようにして改善してい</p>	荒井眞理

順	質 問 事 項	質 問 者
9	<p>くのか</p> <p>(2) 非正規で働き続けている専門職の処遇を改善すべきと考えるが、どうか</p> <p>(3) 地区公民館また分館活動は地域でバラバラである。地区公民館内の話合いや横の連携はどうなっているのか</p> <p>(4) 公民館活動は、本来は島にとっても大事な人づくり、地域づくりと考えるが、その計画はどこで誰が立てているのか。市民に分かりやすく共有する必要があると考えるが、どうか</p> <p>4 職員の働く環境の改善について</p> <p>(1) 職員の不祥事が続いている。その根本にある組織の問題をどのように捉えているか</p> <p>(2) ハラスメントやそれに対する職場全体の人間関係が停滞している時に不祥事や体調不良が起こるとも言われている。それを解消すべく日常の仕事における話合いの場、会議・打合せなどは十分に行われているか</p> <p>(3) 36協定を結び、働き方に責任ある姿勢を市は示すべきではないか</p> <p>5 世界遺産登録推進の取組と他事業の連携について</p> <p>(1) 観光地化する相川の街をどのようにしていくのか。高齢化で地域にできることとできないことがある。市民に分かりやすく説明を求める</p> <p>(2) 相川郷土博物館の整備計画は、今回の推薦書と内容が一致していなくなってしまったのではないか。いつ、誰が再検討するのか</p> <p>6 佐渡島の観光の在り方について 世界遺産に限らず、面での観光を求める</p> <p>7 精神福祉の前進について</p> <p>8 ワクチン接種の安全性と5～11歳の子どもへのワクチン接種について</p>	荒井真理